

NEWS RELEASE

2009年11月6日
コベルコクレーン株式会社

コベルコクレーン 2009年9月中間期 決算概要

【2009年9月中間期の概況】

海外のクレーン市場は、昨秋の金融危機以降、大きく需要が後退し、当期も依然として低調に推移しました。特に、資金調達難により大型プロジェクトの延期や中止が相次いだ中東、信用収縮や先行きの不透明感から新車需要が大きく減退した欧州では大幅な落ち込みとなりました。加えて、これまで比較的堅調に推移してきた北米においても、プラントの新規着工の減少等により、新車市場は軟化傾向にあり、需要は全世界的に低迷しているといえます。

国内のクレーン市場においても、設備投資計画見直しや住宅投資の落ち込みなどを受けたユーザの様子見や買い控えにより、クローラクレーン、ホイールクレーンとも新車需要は激減する結果となりました。

このような厳しい環境の下、当社は、基本に立ち返り、受注残の確実な売上と地道な受注活動により、販売・収益の最大化に取り組みました。また、コストダウンや経費削減など、全社を挙げて収益確保に取り組みました。当期の重点取り組みは、下記の通りです。

受注残の確実な売上と、柔軟な客先対応
更なるラインナップ強化に向けた新機種の開発推進
収益力アップに向けた更なるコストダウン推進
将来に向けた事業基盤強化と体質強化

全世界的な需要減退を受け、当期のクレーン新車販売台数(全クレーンメニューの総台数)は約270台となり、前年同期比で約45%の減少(08年度上期の新車販売台数は約490台)となりましたが、上記の取り組みにより、収益面では、落ち込み幅を最小限に留めることが出来ました。

これらの結果、コベルコクレーンの2009年9月中間期(2009年4月～2009年9月)の業績は、連結の売上高で前年同期比38.4%減、経常利益は前年同期比74.8%減となりましたが、全法人とも黒字を達成し、また全体では、当初計画比プラスの経常利益を確保しました。

< 2009年9月中間期の実績 >

{単位:百万円、()内は前年同期比}

| | | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----|------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 連結 | 2009年9月中間期 | 28,489 (38.4%) | 1,348 (75.8%) | 1,371 (74.8%) | 813 (77.2%) |
| | 2008年9月中間期 | 46,234 | 5,561 | 5,449 | 3,559 |
| 単体 | 2009年9月中間期 | 27,554 (36.5%) | 616 (85.3%) | 1,939 (52.2%) | 1,584 (39.2%) |
| | 2008年9月中間期 | 43,397 | 4,188 | 4,055 | 2,606 |

連結の売上高は国内向けが103億円(前年同期比 30.4%)、海外向けが182億円(同 42.1%)となり、全体としては285億円(同 38.4%)となりました。

【2009年上期の事業別状況】

海外市場

海外市場においては、全世界的な需要減退、客先の資金調達難や円高などの厳しい状況の中、新車売上の最大化を図るとともに、将来に向けたストックビジネス等の事業基盤の構築と整備に取り組みました。エリア別の需要環境並びに当社の取り組み状況は下記の通りです。

これまで比較的堅調に推移してきた北米市場においては、大型プラント工事計画の中止や大規模道路工事発注の減少などの影響によりクレーン需要にも陰りが見え始め、市場は後退局面に入ったといえます。このような状況の中、代理店・サービス流通網の更なる拡充を図るとともに、既存代理店の販売・サービス力強化にも取り組みました。また、部品拡販やサービス体制強化に向けた基盤づくりを行いました。

足元の信用収縮や先行き不透明感から既存市場での新車需要が極端に低迷している欧州においては、アフリカなども含めた新規市場の開拓に取り組むとともに、部品・サービス・エンジニアリング等、新車以外の事業強化に向けた取組みを進めました。

需要が激減した中東市場においては、受注済み案件の引き取り延期やキャンセルが相次ぎましたが、石油価格の上昇に伴い、一部地域でプロジェクト再開の動きも出始めました。このような状況の中、重点地域で代理店との同行営業による販売力強化を図り、また、現地での部品在庫販売など、部品・サービス体制強化に取り組みました。

東南アジアにおいては、為替の安定とともに需要は若干の回復傾向にあり、販売台数の確保を最優先として営業活動に取り組みました。また、代理店研修の実施など、サービス力の向上に向けた取組みも着実に実施しました。

景気回復の期待感が高まっているインドにおいては、未だ他エリア同様厳しい状況にはあるものの、電力関連のインフラ整備を中心として市場の拡大が見込まれており、販売力・サービス力強化に向けた代理店の活性化に取り組みました。

国内市場

国内のクレーン市場は、足元の工事量減少に伴い、総じてユーザの稼働率は芳しくなく、また先行きの不透明感からくる様子見や買い控えが目立ち、新車市場は予想以上に大きく減退しました。

クローラクレーン市場においては、需要は前年同期比約30%減となりましたが、受注残を確実に出荷するとともに、地道な受注活動の継続により、落ち込み幅を最小限に留めることができました。

ラフテレーンクレーン市場においては、需要は前年同期比約70%減となり、これに伴い当社の販売台数も大きく落ち込む結果となりました。このような厳しい状況ではありますが、9月末に販売を開始したシティコンシャスクレーンの新モデル、パンサーX(エックス)700のコンセプトは、市場でも概ね好評で、引き続き、早期市場浸透に向けた活動を継続していきます。

生産面においては、国内外の受注残案件の確実な出荷対応を目指して、取引先の協力のもと、ジャストインタイム生産方式により、リードタイムの短縮、生産効率アップを図り、生産台数の増減に柔軟に対応できる体制作りに取り組むとともに、カスタム対応力強化に向けた取組みを行っています。

サービス面においては、遠隔稼働管理システムKCROSSを活用し、引き続き顧客満足度の向上を図るとともに、サービス体制の変革にも取り組んでいます。

他社との提携関係

米国マニトワック社へのクローラクレーンのOEM供給については、世界的な需要後退の影響により、販売台数は前年同期比減少となりました。

同社の欧州市場向けにOEM供給を開始したホイールクレーンGCK3045は、マニトワック社が4月のインターマツ展に出展し、本格的な販売活動が開始されました。厳しい市場環境の中ですが、当社としても、早期市場浸透、拡販に向け、更なる協力体制を検討していきます。

ラフテレーンクレーンについて、小型機種本体のOEM供給を受けているタダノ社との提携関係においても、有効な提携関係を維持することができました。今後も引き続き緊密な協力関係を継続していきたいと考えております。

【今後の重点課題と2009年度の見通し】

09年度下期における世界的なクレーン需要は、エリア別の濃淡はあるものの、引き続き低調に推移する見込みです。販売面では、国内、海外ともに厳しい状況が継続すると予想され、加えて、不安定な為替動向や金融不安などの収益圧迫要因により、先行きは極めて不透明な状態です。

このような状況の中、09年度は、守りの経営を基本としながら、下記の重点課題に取り組むことで、事業基盤整備と体質強化を図るとともに、2010年から2012年の新中期経営計画策定を含め、将来に繋がる施策を確実に実行してまいります。また、収益面では基本に立ち返り、受注残の確実な売上と地道な受注活動、コストダウン活動の継続により、収益確保を図ってまいります。

< 重点取り組み課題 >

新興市場および高需要市場への重点特化と流通網整備
 リードタイム短縮と在庫圧縮に向けた継続取組
 購買力強化によるコストダウン推進と取引先との連携強化
 シティコンシャスクレーンを核としたホイールクレーンビジネス強化
 ライフサイクルビジネス強化に向けた中古車拡販体制の基礎固め
 全ての事業活動での徹底した効率化と経費削減の推進

< 2009年度通期の見通し >

{単位:百万円、()内は前年度比}

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 連結 | 64,000 (24.9%) | 3,300 (65.2%) | 3,200 (64.5%) | 1,500 (75.1%) |
| 単体 | 59,000 (27.6%) | 1,900 (73.9%) | 3,600 (47.3%) | 2,400 (38.9%) |

* 2009年度下期における為替レート前提: 1米ドル=95円、1ユーロ=130円

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

会社概要

| | | | |
|--------|---|----|--------------|
| 社名 | コベルコクレーン株式会社 | | |
| 英社名 | KOBELCO CRANES CO.,LTD. | | |
| 創立 | 2004年4月1日 | | |
| 本社所在地 | 東京本社:東京都品川区東五反田2-17-1 | 代表 | 03-5789-2130 |
| 資本金 | 63.8億円 (株)神戸製鋼所 100% | | |
| 代表取締役 | 藍田 勲(あいだ いさお) | | |
| 事業内容 | 建設機械の開発、生産、販売並びにサービス | | |
| ホームページ | http://www.kobelco-cranes.com | | |

平成21年9月中間期 決算業績概要

会社名 コベルコクレーン株式会社
 代表者 代表取締役社長 藍田 勲
 問合せ先責任者 経営企画本部長 砂河 利文 : 03(5789)2130
 決算取締役会開催日 平成21年10月28日
 親会社 株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)

1. 平成21年9月期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | (当期)純利益 | 一株当たり(当期)純利益 |
|--------|--------|-------|-------|---------|--------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 21年9月期 | 28,489 | 1,348 | 1,371 | 813 | 7,836.19 |
| 20年9月期 | 46,234 | 5,561 | 5,449 | 3,559 | 34,287.09 |
| 21年3月期 | 85,227 | 9,492 | 9,015 | 6,026 | - |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 一株当たり純資産 |
|--------|--------|--------|--------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 21年9月期 | 49,144 | 28,021 | 57.0 | 269,959.35 |
| 20年9月期 | 56,053 | 29,305 | 52.3 | 282,321.77 |
| 21年3月期 | 56,089 | 31,338 | 55.9 | - |

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 の期末残高 |
|--------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 21年9月期 | 1,794 | 2,616 | 1,867 | 198 |
| 20年9月期 | 283 | 2,750 | 2,079 | 2,887 |
| 21年3月期 | 2,330 | 2,343 | 107 | 2,979 |

2. 平成21年9月期の個別業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 経営成績

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | (当期)純利益 | 一株当たり(当期)純利益 |
|--------|--------|-------|-------|---------|--------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 21年9月期 | 27,554 | 616 | 1,939 | 1,584 | 15,236.45 |
| 20年9月期 | 43,397 | 4,188 | 4,055 | 2,606 | 25,112.74 |
| 21年3月期 | 81,473 | 7,270 | 6,836 | 3,930 | - |

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 一株当たり純資産 |
|--------|--------|--------|--------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 21年9月期 | 49,239 | 28,615 | 58.1 | 275,682.85 |
| 20年9月期 | 54,097 | 27,787 | 51.4 | 267,705.56 |
| 21年3月期 | 54,208 | 28,722 | 53.0 | - |

(3) キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 の期末残高 |
|--------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 21年9月期 | 3,524 | 1,619 | 1,867 | 114 |
| 20年9月期 | 747 | 2,824 | 2,079 | 76 |
| 21年3月期 | 1,581 | 2,197 | 676 | 137 |

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|--------|--------|-------|-------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 連結(通期) | 64,000 | 3,300 | 3,200 | 1,500 |
| 個別(通期) | 59,000 | 1,900 | 3,600 | 2,400 |

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
 実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。